

令和5年度 中野区立南中野中学校 学校経営方針
FOR 2050 (2050年に向けて) ~東京一さわやかなあいさつのできる学校~ 校長 竹之内 勝

【目指す学校像】

- ◇ 生きる目標を明確にもち、それに向かって一生懸命努力する生徒が育つ学校
- ◇ 生徒一人ひとりが、様々な学校生活の場面で感動を味わうことができる学校
- ◇ 「中野区子どもの権利に関する条例」の理念の下、生徒の可能性を伸ばすために、教職員が一つになり、組織として機能する学校
- ◇ 教員一人ひとりの心身における健康保持が実現している学校
- ◇ 教員一人ひとりが、誇りとやりがいをもって職務に従事できる学校

【目指す生徒像】

- 自他の生命を尊重し、健康な生活を送ろうとする生徒
- 人権尊重の精神を理解し、社会の発展に寄与しようとする生徒
- 幅広い教養を身に付け、生涯学び続けようとする生徒

教育目標

人権尊重の精神を基調とし、知性と感性に富み、心身ともに健全で、人間性豊かな生徒の育成を目指す

自ら学び、考え、実践できる人になろう(賢く)

思いやりのある、心豊かな人になろう(優しく)

心身ともに、たくましく人になろう(逞しく)

【経営モットー】 FOR 2050 ~考えを交流し、深め合う学校を目指して~

課題1「賢く」

主体的・対話的で深い学びの実現、基礎・基本の徹底、家庭学習の習慣化

課題2「優しく」

自己有用感に裏付けられた自己肯定感の醸成、挨拶習慣、いじめ・不登校等対応、正しい判断力(セリフ・ダメージ)・言葉遣いの育成

課題3「逞しく」

健康な生活、安全・安心の徹底、運動の日常化、体力・運動能力の向上

INTELLIGENCE

【成果指標1】

- (1) 「家庭で学習(予習)している」 ㊦65%以上
- 「読書時間10分以上/日」 ㊦65%以上
- 「自分の学力は向上している」 ㊦65%以上
- 「学校図書館貸出冊数/人」 ㊦10冊以上
- (2) 「家庭で毎日学習している」 ㊦50%以上
- (3) 国・都学力調査 都平均以上
- 区学力調査 目標値達成生徒70%以上

UNIVERSAL DESIGN

【成果指標2】

- (1) 「人や社会の役に立つ人間だと思う」 ㊦60%以上
- 「自分にはよいところがある」 ㊦80%以上
- 「相談事や悩みを相談できる」 ㊦75%以上
- (2) 「生徒が気軽に相談できている」 ㊦60%以上
- 「特別支援教育の説明」 ㊦70%以上
- 「保幼小中連携教育の説明」 ㊦70%以上

ACTIVE

【成果指標3】

- (1) 「だいたい毎日運動している」 ㊦70%以上
- 「保体の授業に興味・関心がある」 ㊦80%以上
- (2) 「健康・体力づくりを進めている」 ㊦80%以上
- (3) 校内・校外事故の年間件数前年比 5%減
- 体力テスト「合計点」 全国平均以上
- 中野スタンダード達成率 80%以上

具体的な取組

- ア 各教科の指導計画及び評価計画に基づいて指導と評価の一体化を図る。
- イ 家庭と連携し家庭学習ノートの取組で学習習慣の定着を図る。
- ウ 学習支援員等を活用し、放課後・長期休業学習教室等を実施し、基礎・基本を身に付けさせる。
- エ 「中野区学力にかかわる調査」や「東京都児童・生徒の学力を図るための調査」 「全国学力学習状況調査」の結果を活用し、指導方法の見直しを進め、授業改善プランを策定、分ける授業を実践する。また、各教科の指導において、言語活動の充実及び主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、思考力・判断力・表現力の更なる向上に努める。
- オ ICT機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせたニューノーマルの学習モデルの実現を目指した授業改善を進め、ICT機器の効果的な活用等により、学ぶ意欲や課題を解決する力、コミュニケーション能力の育成に努める。
- カ 数学・英語において、全学年で習熟度別少人数指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。また、習熟度の進んでいる生徒には発展的な学習に取り組ませる。理科においては2・3年生で少人数指導やTTによる指導を取り入れ、個別指導を展開し、基本的な観察・実験技能を確実に習得させる。
- キ 読書活動の充実と学校図書館指導員を活用した学校図書館の計画的な利用により、生徒の学習活動や読書活動の充実を図る。
- ク 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生徒の意見発表や話し合い活動、レポートや論文の作成等の指導に力を入れ、全て教科で更なる言語活動の充実を図る。

- 「学校2020レガシー」として、「障害者理解」と「ボランティアマインド」に重点をおき、自己有用感に裏付けられた自己肯定感を醸成する。

具体的な取組

- ア 教育相談担当と特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を毎週開き、特別な支援を要する生徒について学校生活支援シート及び個別指導計画を作成するとともに、巡回相談等も活用しながら教育活動全体を通して個に応じた適切な指導・評価を行い、関係機関との連携を図る。
- イ 学校の教育活動全体を通して自他の生命を尊重する心、社会奉仕の精神などを養う。思いやりのある、他者と支え合い助け合う心、伝統や文化を尊重し、公共の精神を滋養し、環境保全に貢献する心の育成の指導を重視し、生徒一人ひとりの道徳性を高める。
- ウ 道徳授業において、道徳的弾断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標として、道徳教育推進教師を中心に全体計画、年間指導計画を作成する。教科書「新しい道徳」(東京書籍)を中心に、国の道徳副読本「私たちの道徳」や東京都の道徳教育教材集「心 みつめて」などの利用を年間指導計画に位置付ける。
- エ 道徳授業においては、全教員がローテーションで行う授業、読み物資料を活用し道徳的価値について考え、少人数グループによる話し合い活動を取り入れた授業を「南中スタンダード」と設定し、全教員で取り組む。
- オ 「道徳授業地区公開講座」等を通して、家庭や地域と連携して道徳教育の一層の充実を努め、いじめや不登校のない学校を目指す。
- カ 道徳科の授業における指導のねらいとの関わりにおいて、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉えるために、道徳ファイルと道徳まとめシートを活用した評価資料を整え、道徳科の授業内容の充実を図る。
- キ 中野特別支援学校との交流活動や「学校2020レガシー」を通して障害者理解をはじめとする他者理解に努め、持続可能な社会の創り手を育成する。
- ク 生徒会活動を充実させ、生徒の自発的・自治的な活動を促すとともに、地域社会との連携を深め、ボランティア活動等を推進して、社会参画の意識を高める。
- ケ 近隣保育園・幼稚園や小学校、中野特別支援学校等との連携や交流活動を通して、人としての関わりを大切にし、互いを理解し尊重し合い、支え合い、共に生きる態度を育てる。
- コ 特別支援教育や保幼小中連携教育の更なる啓発を図る。
- サ 職業講話や職場体験等のキャリア教育活動、地域ボランティアなどの社会貢献活動を通して、人と人との関わりや地域との関わり大切さ、環境について考えさせ、社会の一員としての自覚や規範意識を育てるとともに、自己の生き方を考えさせる学習を行う。

具体的な取組

- ア 健やかな体の育成を目指し、望ましい生活習慣や運動習慣の確立と体力・運動能力の向上に向け、中野スタンダードを基準として体力テストの結果を踏まえた「体力向上プログラム」を作成する。通年で持久カトレニングと筋カトレニングに取り組みせ、生徒の体力、運動能力の向上を目指す。部活動指導員及び外部指導員を活用した放課後スポーツ教室を毎週水曜日に開催し、楽しみながら投力を高める取組に注力する。また、生徒が感染症等について正しく理解し主体的に健康管理に努めるよう指導し、生涯を通じて心身ともに健康的な生活を送るために必要な資質・能力の育成に努める。
- イ 養護教諭や栄養士との連携により、食に関する指導を充実させるとともに、運動に親しむ態度や能力、自ら健康を保持・増進する意識や実践力を育成する。
- ウ 保健安全担当と防災担当と連携し、「セーフティ教室」「情報モラル教育」「薬物乱用防止教室」「性教育」「かん教育」「防災体験教育」等を組織的に計画・実施し、心身の健全な育成を図るとともに、事故や災害に対処できる力を育成する。情報モラル教育については、SNS東京ノートを活用し小学校との継続性を図り、生徒自ら策定し、毎年7月に見直しをしているSNS南中ルールを活用するとともに、SNS家庭ルールの作成を推奨する。
- エ 運動会での「南中ソラン」や文化発表会での合唱コンクールや文化発表等、生徒の自主的な活動を基にした本校独自の取組を工夫する。
- オ 命を大切にす精神を高めるために、がん教育、普通救命講習を行い、自他の生命を尊重する心、自分の将来をよりよいものにするための知識・行動力を身に付けさせる。
- カ 生活ルールやSNS学校ルール等の小・中学校における連続性を図る。

- カリキュラム連携を視点にした保幼小中連携教育に取り組むとともに、学校の更なるユニバーサルデザイン化に向けて取り組む。